KBS
ケイビーエス株式会社
www.kbsjapan.com
【社内報ナルゲ】
날개(ナルゲ)とは韓国語で翼(つばさ)を意味します。

날개
nalgae

vol.48
January 2015

KBSまだん韓国研修旅行～鬱陵島～2014.9

A rolling stone gathers no moss

代表取締役　高　允　男

日本のことわざに、「情けは人の為ならず」というものがある。この言葉には、ふたつの相反した解釈の仕方がある。

ひとつは、他人への情けはいずれ自分に返ってくるために、情けをかけなさいとするもので、もうひとつは情けをかけることはその人のためにならないから、情けをかけない方がよいという、まさに正反対の解釈である。これは、前者が本来の意味なのだが、後者の解釈もあながち間違いではないところが面白い。

英語にも、同じように相反する解釈がある言葉として、「A rolling stone gathers no moss（転がる石に苔むさず）」ということわざがある。

転がる石には苔がつかず、新鮮で変化に富んでいると、どちらかというと、変化することを肯定的に捉えるものだ。日本で言われる「流れる水は腐らず」という意味に近い。

もうひとつは、仕事や住所などをよくと変える人は信用できないというふうに、変化することを否定的に捉えるもので、日本では「石の上にも三年」だろうか。両方ともに説得力があるように思える。

KBSの未来を考えるとき、私は「A rolling stone gathers no moss」の両義性を生かしたいと考える。

我が社は変化の激しい印刷業界にいち早く対応しながら今日に至っている。これからも時代の要請に応えられるよう変化していかねばならない。

しかし、2018年に創業50周年を迎えるあたり、「多言語ならＫＢＳ」への信頼をより強くし、変わらず地道に邁進したいと改めて心をひきしめるのである。

多言語の情報伝達、ますます必要に

営業企画部　上間　行洋

近年、国際交流の活発化に伴い経済、産業、医療、文化、芸術、スポーツ、観光など、あらゆる方面で、国どうしの人の出入りも急速に増してきております。それにより、私たちのすぐ身の回りにも多くの外国人が生活しているのを感じるようになりました。２ヶ月ほど前までは、駅までの途中中国人らしい20名程の男性が、そろってどこか近くの会社に通う姿を見かけましたが、最近は、同じ道を東南アジアからの人たちらしい30名ぐらいの女性が通うのに毎日のように出会います。また、我が家の隣の93才になるおばあちゃんの介護に、タイ人の女性が介護センターから派遣されてきているそうです。

このように日本国内にいろんな国の人々が集まると、公共機関の発行物、企業のパンフレットやマニュアル、観光ガイドや案内サインなど、あらゆる場面で多言語での情報伝達の必要性がますます高まってきます。

当社では、長年の経験と技術力で多言語の翻訳・ＤＴＰ・ウェブ作成などに幅広く関わってきました。そこで当社での2013年1年間の受注案件を、言語別、カテゴリ別にその割合を出してみました。

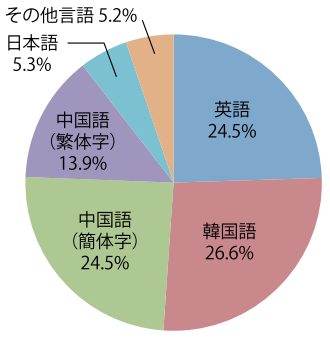
まず、言語別では図1に示す通り、韓国語・英語・中国語（簡体字）がだいたい同じぐらいの比率となっており、次いで中国語（繁体字）となっています。その他言語の中では多いもの順に、タイ語、フランス語、スペイン語、アラビア語、ポルトガル語、ロシア語、ドイツ語、ウクライナ語、イタリア語、ベトナム語となっています。日本語とあるのは、殆どが印刷納品物です。

カテゴリ別では、図2のように企業・商品等広報物が一番多く、施設案内サイン、製品カタログ・取説、観光案内、ホームページという順になります。

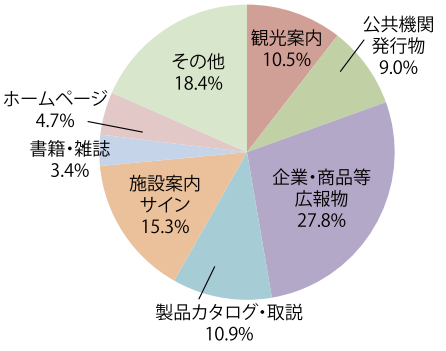
ここでのその他は、戸籍謄本などの書類翻訳や、多言語のバラ打ちアウトラインデータ納品のもの、印刷物で納品するものなどです。

今回の集計では、やはり英語・韓国語・中国語が現在の当社の仕事の大部分を占めていることが分かりますが、今後これらがどのような傾向をたどるのか、毎年見ていくと、何か新たな変化が起きるのかどうか、興味深いです。

【図１　言語別受注件数】



【図２　カテゴリ別受注件数】



重回志愿者活动

翻訳部　呂　咏　鴻

今年 8 月我又重回志愿者活动了。说“重回”，是因为其实我从 2007 年 11 月就开始参加了，而之前 2 年一直没去。这就是 NPO 市冈国际教育协会的市冈日本语教室（以下简称“市冈”）。

市冈始于 1995 年，是免费教住在日本的外国人日语的志愿者组织。对留学生、日本人配偶和工厂研修生等各种背景来日的外国人提供日语学习的帮助。活动于每周五晚 7 点～8 点半在大阪市弁天町的港区区民中心进行。因为没有任何出席的规定和要求，我通常在自己方便时前去参加活动。这里采用一对一的个别指导形式，除日语学习外，还注重文化交流并能结识朋友等。现在的市冈以一个成熟的的 NPO，为地区社会的多文化共生，开展丰富的活动和交流事业，也曾接受过地方媒体的报道。

我来日本最初的时候，由于想获得更多的接触一般日本人并用日语和他们交流的机会，经日本老师的介绍参加市冈的活动，但踏入社会后有一段时间一直没去。直至今年夏天，生活和家庭等渐趋稳定告一段落，于是我又重回了市冈。时隔 2 年来到市冈，由市冈的理事要求，我转而登录成了“特别志愿者”。所谓“特别志愿者”，就是由日语好的原外国学习者转成志愿者来帮助初级的外国学习者学习日语的人。往后，我也作为志愿者开始尝试新的国际交流和多文化共生的活动，尽可能地为他人和社会做点什么吧。

ボランティア活動に復帰

今年の８月にボランティア活動に復帰しました。復帰といったのは、実は私は 2007 年 11 月から参加していましたが、この２年間は行っていなかったからです。そして、そのボランティア活動とは NPO 市岡国際教育協会の市岡日本語教室です（以下は「市岡」と略す）。

「市岡」は 1995 年に発足し、日本在住の外国人に無料で日本語を教えるボランティア組織です。留学生・日本人の配偶者・工場の研修生などの様々な背景で来日した外国人へ日本語学習の支援をしています。活動は毎週金曜日の夜７時～８時半、大阪市弁天町にある港区民センターで行なっています。出欠の規則は一切ないので、私は都合がよい時に参加しています。教室では１対１という指導の形で、日本語学習の他、文化交流、友達作りなども大事にしています。今の「市岡」は NPO で地域の多文化共生のために多様なイベントや交流事業を展開しており、地元のマスコミで報道されたこともあります。

私は来日当初、もっと日本人と触れ合って日本語で会話する機会が欲しかったため、日本人の先生の紹介で「市岡」に参加していましたが、社会に出てからはしばらく行っていませんでした。今年の夏、私は生活がいろいろ一段落ついたので、「市岡」に復帰しました。２年ぶりに行った私は、「市岡」の理事に特別ボランティアとして登録されました。特別ボランティアとは、日本語の上手な元外国人学習者で初級の外国人学習者の日本語学習を手伝う者です。これから、私はボランティアとして新たな国際交流と多文化共生の活動にチャレンジして、他人と社会に何かできればと思います。

นักแปลกับโลกยุคสมาร์ทโฟน

タイ語翻訳者　ルチャヌラック・ミティ

ในโลกยุคที่ใช้สมาร์ทโฟนกันอย่างแพร่หลายนี้ โลกเราเปิดกว้างกันมากขึ้น วัฒนธรรมต่างชาติ ต่างภาษาเข้าถึงกันได้ง่ายขึ้นยิ่งตอนนี้ง่ายดายกว่าเมื่อก่อน ไม่ต้องนั่งอยู่หน้าคอมพิวเตอร์ เพียงแค่หยิบสมาร์ทโฟนขึ้นมาก็เชื่อมต่อโลกอินเทอร์เน็ตได้แล้ว และถ้าหากเจอบทความต่างภาษาเพียงแค่นำข้อความไปใส่ลงเว็บไซต์แปลภาษาก็พอจะได้ใจความมาบ้าง พอจะท่องเว็บไซต์ภาษาต่างแดนได้ไม่ยากเย็นเท่าไหร่ แต่หากจะนำข้อความที่ถูกแปลมาจากเว็บไซต์แปลภาษาไปใช้งานอย่างเป็นทางการใจความครบถ้วนก็คงจะเป็นไปได้ยาก นอกจากนี้หากต้นฉบับที่ได้มาไม่ใช่ไฟล์หรือข้อความที่ถูกพิมพ์มาที่สามารถคัดลอกไปวางบนเว็บไซต์แปลภาษาเหล่านั้นได้เพียงเท่านี้ก็หมดตัวช่วย

ในการรับทำงานแปลเหล่านั้น นักแปลผู้เชี่ยวชาญจึงยังเป็นตัวเลือก จำนวนบริษัทที่รับแปลตามท้องถนนเห็นจะมีไม่มาก ส่วนใหญ่มักจะอยู่ใกล้ศูนย์ราชการต่างๆเพื่อรองรับชาวต่างชาติที่จะเข้าไปติดต่อราชการ แต่เมื่อลองเสิร์ชผ่านอินเทอร์เน็ทก็เห็นจะมีอยู่ไม่น้อย แต่ถ้าเฉพาะเจาะจงเป็นภาษาญี่ปุ่น จำนวนก็น้อยลงไปอยู่มาก ค่าแปลก็แตกต่างกันตามหนังสือสัญญาที่ทำกับนักแปล มีทั้งนับเป็นหน้าและนับเป็นจำนวนจิ ความยากก็ส่งผลต่อค่าแปลเช่นกัน เช่น งานที่มีศัพท์เฉพาะย่อมมีราคาสูงกว่างานทั่วไป

ถึงแม้ว่ายุคที่ใช้สมาร์ทโฟนกันอย่างแพร่หลายนี้จะส่งผลให้การใช้บริการนักแปล หรือผ่านบริษัทรับแปลน้อยลงไปบ้าง จากการปรับปรุงเว็บไซต์แปล แต่ผลดีที่มีต่อผลงานของนักแปล คงเป็นในเรื่องของการแปลงานที่มีศัพท์เฉพาะทาง ซึ่งนักแปลในยุคนี้สามารถเข้าใจได้ถูกต้อง และตรงกับต้นฉบับมากขึ้นโดยอาศัยข้อเท็จจริงที่ได้จากโลกอินเทอร์เน็ทมาช่วยขัดเกลางานแปล ได้งานแปลที่สมบูรณ์มากขึ้น

翻訳とスマートフォンの時代

最近はスマートフォンが普及し、昔より外国の文化に接しやすくなった。パソコンの前に座らなくても、スマートフォンを取るだけでインターネットに接続できる。もし外国語を読みたいなら、その文章をコピーして翻訳サイトに入れるだけで、簡単に翻訳された文章が出てくる。翻訳された文章は必ずしも正しい意味が表示されているわけではないが、そうだとしても読みたい外国語をおおまかには理解することができる。しかし、そうはいっても翻訳サイトで翻訳した文章を公に使うことはまだまだむずかしいと思う。その他にも、翻訳したいものがテキストデータではない場合、つまり画像となっている文章や、コピーできないファイルの文章だったら、翻訳サイトだけでは対応できないだろう。

バンコクで人気のショッピングセンター「Terminal 21」

それらの仕事に対応する場合、プロの翻訳者に依頼することは選択肢の一つである。近頃のタイでは、翻訳サービスを扱う会社の多くは、官公庁に連絡したい外国人に対応するため、官公庁の近くに集まっている。インターネットで検索してみると、翻訳サービスを扱う会社は少なくないが、日本語に対応している会社となるとずいぶん数が少なくなる。翻訳代は翻訳者と契約によって異なる。ページ数で計算する場合もあるし、文字数で計算することもある。文章の難しさも翻訳レートに影響があるだろう。専門用語が多く出てくる資料は通常の場合より高くなる。

最近のスマートフォンの普及や翻訳サイトの改良などにより、翻訳者に仕事を依頼することが少なくなってきたが、翻訳者にとって良い点もある。例えば、専門用語の資料の入手などが簡単になることだ。最近の翻訳者は、インターネットで調べ、専門的な内容でも早く正しく理解し、より正確で質の高い翻訳文章を提供することができるようになった。

2014 社員ブログ

http://blog.kbsjapan.com/

日頃感じたことを書き綴っていますので、
どうぞお気軽にアクセスしてみてください。
今号でもいくつかをご紹介いたします。

雪の降る音

【02月14日】 横澤　寅男

雪の降る音が聞こえるはずはない……そう思っている人は多いと思いますが、実は雪の降る音は聞こえます。今日大阪でも朝から雪が降り積もりました。結構激しく降っていましたが、雪の降る音等は聞こえません。雪の降る音は一切周りの音が聞こえないくらいの静寂が必要です。ちょっと調べてみるといい表現がありました。“蚕が桑の葉を食べている音”よりもっともっと小さい音です。どちらも経験しなければ想像もつかないですよね。

よく雪の降る音として「深々」と表現されますが、ひっそりと静まり返るとかの意味合いもあるそうで、雪の種類にもよりますが、「シンシン」と音が聞こえる場合も本当にあります。考えてみると貴重な体験をしているということですね。

手作りアクセサリー

【03月03日】 松本　佳代子

娘が早く寝てくれると……
わずかながら、自分の時間がとれます。
アイロンがけや繕いものがあればこの時間に。
それらもなく、読みたい本もなかった時、
ちょこちょことアクセサリーを作っています。
凝ったものを作りたい！という願望はあるのですが、
上手にできても、つけて行く場所がナイ……（悲しい……）
なので、普段使い用のピアスを作ることが多いです。
気に入ったら色違いで……
と作っているうちに、
気づけばこんなにたくさん！

ぐるり、大阪城っていいな

【03月14日】 林　芳　子

３月の土曜の午後、風もなく青空が広がっているのを見て、思い切って大阪城へ。環状線で桃谷駅から森ノ宮駅へ。春を待ちかねたように大勢の人出だ。大阪城公園の噴水のところをそのまま進むと、天守閣へ向かう階段がある。これはかなり高い。息を切らさないようにゆっくりのぼる。

階段を登ると、見晴らしが一気に広がる。現在の大阪城は昭和に建てられた新しい城だが、昔ながらの城門や濠の石積、城壁の巨大石など古城らしい風情が漂う。お城をめざしていくと途中大きな石の多聞櫓跡があり、そこをすぎると眼下に梅林が広がる。濠にそって下りていくと中ほどに梅林の入り口があった。

紅、白、ピンク、満開のもあれば、二つ三つ咲いたものもある。花の名札がぶら下がっている。香りを匂いでみる。それほど強く香らないのをみると、まだほんとうの開花ではないのかな。

梅林は、天守閣の東側に位置し、梅と大阪城の写真にはちょうど良いロケーションだ。たくさんの人たちがカメラや携帯、ビデオなど構えて撮ったり送信したりしている。すこし陽がかげって冷たい空気が流れ込む。シャッターを押す手がかじかむ。

梅林から極楽橋を渡って天守閣前の広場へ。少し時間がありそうなので天守閣に上がることにした。エレベーターがあるが階段でのぼる。城内は博物館になっていて、大阪の歴史が展示されている。「大阪の陣」の時、徳川軍が陣をしいたという御勝山が屏風絵のところに描かれていた。会社の近くの勝山公園である。

天守閣からはぐるりと四方を見わたせ、大阪一の眺望だ。南の方には、新しくできたハルカスと小さく通天閣が見える。東に目をやると生駒信貴から金剛高野へと山々が連なっている。北に見えるのは六甲北摂の山々だろう。その手前には淀川が夕陽を浴びてキラキラ光っている。

空気が澄んで風が冷たい。胸いっぱい息を吸い込んだ。ひさしぶりにはればれとした気持ちで帰途についた。

桜の通り抜け

【04月20日】 李　秀　泰

ずいぶん久しぶりに桜の通り抜けに行ってきました。造幣局の南門（天満橋側）から北門（桜宮橋側）への一方通行なので、通り抜けと言われたようです。ソメイヨシノより遅く咲く八重桜が、あちこちに、とてもきれいに咲いていました。

昔行った時の記憶は砂ぼこりと人ごみでしたが、かわらないのは人の多さでした。毎年、1週間でなんと60万人近くの花見客が訪れるそうで、地方や中国からの観光客も多く見かけました。

桜ノ宮への大川沿いも露店がえんえんと続き、ライトアップを目指して来る人たちであふれていました。

夕暮れの中、なつかしい天満の街を通って帰路につきました。

果たして運動になっているのか?

【06月03日】 横澤　寅男

以前より日頃の運動不足解消に何かしなければと思っていました。寒い季節は外に出るのも億劫だったけど、3月の後半から、金曜日の帰りは家まで歩いて帰ることにしたんです。

はじめはわかりやすい道を通って帰ったのだけれど、時間を計るとちょうど1時間。「あー、約4kmか」と思っていました。

ところが先週Googleの地図で距離を測ってみたところ、距離にして約5kmくらいはありました。思ったよりも歩くのが早いようです。最短コースはどうやら地図の青丸のコースのようで、ちなみに初めて通ったコースは、赤いラインです。

3月の頃はまだそれほど暖かくはなかったけれど、家まで歩くと汗だくです。暗かった道も今の季節はまだ陽があって明るいうちに帰れます。結構運動したような気になりますが、果たして運動になっているのかな?

歩くときはただ歩くのではなく、体に「今運動しているんだ」と言い聞かせながら歩くと、効果があるって聞いたことがあります。でも1週間に1回だけじゃ効果ないかもしれませんね。

KBSの作品を見た＆評判

【07月11日】 呂　咏　鴻

日曜日に、私は久しぶりに大阪日本橋にある中華料理店の「故郷羊肉串店」へ食べに行ってきました。

食べ終わって会計の際に、私はコミュニケーションとしてレジの中国人女性スタッフに「あのね、きみの店のメニューはうちの会社で作ったのだよ」と中国語で気軽に話しかけてみました。すると、彼女は「そう!?今回作ってもらったメニューは良いね。質がめっちゃいいよ」と、笑顔で返してくれました。

私は「あそこにあるメニューがそう。ハハ（笑）」と言いました。彼女は楽しそうに「今回のメニュー、以前よりすごく良い、硬くて丈夫で使いやすい。表面の加工もめっちゃいい材料を使ってるみたい。お客さんが汁とか調味料とか油とかを落としたり、こぼしたりしても拭き取りやすい、すぐ取れるよ」……いろいろ褒めてもらって、良い評判を聞きました。最後に名刺を交換しました。（笑）

中国語会話は日本語ほど敬語がないので、訳すと上記に近いような雰囲気の会話です。面白かったですね。

釣って食べる

【07月15日】 稲木　隆文

なにか新しい趣味を探していたところ、初めに道具さえ揃えてしまえば、あとはあまりお金のかからなさそうな“釣り”を始めることにしました。

目標は「釣って食べる」。

というわけで、大阪湾でも屈指の人気スポット「泉佐野食品コンビナート」へ行って来ました。

気合いをいれて朝4時に起き、釣りはじめたのですが、豆イワシ2匹だけ……、長くつきあえる趣味になりそうです……。

「釣って食べる」の目標どおり、イワシは“オイルサーディン”になりました。

蝶の成長

【09月30日】 稲木　隆文

春、庭にゆずの苗木を植えました。実るのに5年はかかるかな～なんて思っていたら、半年で小さな実がなったのです!

ところが葉が何者かに食い荒らされてしまい無残な姿に。原因は緑の芋虫でした。この芋虫、蝶の幼虫ぽいので虫かごに入れて飼ってみることにしました。

しばらく柚の葉をあげていたら、1週間でサナギになり、2週間たった朝、ついに蝶になりました!

羽が乾いた蝶は数時間後飛び去って行きました。

娘は近くの保育園に通っていますが、似た蝶が、園庭で遊んでいる所へ、「バイバイを言いに来た」そうです。

読書を楽しむじかん

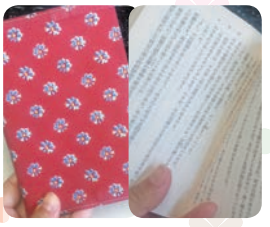
【11月17日】 松倉　絵夢

少し前に新聞で活字離れに関する記事を読みました。活字離れの問題は前々から取り上げられていますが、個人的に本を読む時間が減ってきたな?と感じていたので目に留まりました。

私が一日のうちで一番まとまって本を読む時間は、実はお風呂!

そもそもお風呂に本を持ち込むようになったのは、高校生の時に「お風呂で覚える英単語」という防水加工の単語帳をもらったことがきっかけでした。今では普通の本にビニールカバーを付けて持ち込んでいます。これまでに、うっかり湯船に落としたことが何度かありましたが、瞬時に救出したら意外に大丈夫でした。

お風呂で読書といえば、特にお気に入りなのが休日の朝風呂!



窓から差し込む光で本を読みながら、のんびり湯船につかっているとめちゃくちゃリラックスできます。自然の光で本を読むと本当に気持ちが良くて、予定がない日は朝から3時間以上入ったりすることもあります。さすがに入りすぎかな……。

落書きしていいんです!

【11月21日】 柳　美　善

ここは韓国にある最近人気の観光スポットです。

色んな部屋がありますが、落書をしてもいいという珍しい部屋があって入ってみました。

落書なんて小さいころ以来書いたことはないです。

そんな私がこんな大人になって落書をしちゃいました。

ははは!!!

「何でもいいから書いてみて」と友達から言われて

しぶしぶ私が書いたのは「바보(アホ)」でした。少し恥ずかしい……

とにかく子供のころに戻った気がした3秒でした。

短かかったかな……?

アルトとわたしの小さな出会い

総務部　林　芳　子

小学校５年か６年のときに、学校で合唱部ができた。わたしは、先生に言われて入ったが、なぜかアルトパートだった。20人ぐらいで、クラブ活動ではなく臨時的な編成だったようだ。学芸会で歌ったのか、しかし地域のコンクールでも歌ったように記憶している。

とてもあいまいな思い出だが、そのとき習って歌った「花」（武島羽衣作詞、滝廉太郎作曲）は、いまでもアルトを覚えている。

～～春のうららの隅田川　のぼりくだりの船人が
かいのしずくも花と散る　ながめを何にたとうべき～～

最初にアルトで歌った曲である。

通っていた教会では高校生になると聖歌隊に入るように言われ、私は迷わずアルトを歌うようになった。毎週日曜日朝、集まって30分ぐらい練習し礼拝で歌う。また、クリスマスが近づくと、燭火礼拝の準備のため聖歌隊は猛特訓する。12月24日の夜、ローソクを灯しながら音楽礼拝を捧げる。緊張しすぎて楽譜がめくれなかった。そのころ覚えた賛美歌はいまでもやはりアルトが出てくる。

～～きよしこの夜　星はひかり　救いのみ子は
まぶねの中に　ねむりたもう　いとやすく～～
（由木康作詞、GRUBER FRANZ XAVER作曲）

今年、何十年ぶりに聖歌隊に入った。やっぱりアルトだ。いまクリスマス燭火礼拝のため毎週練習中だ。最近は、おなじみの聖歌でもちょっと編曲されていたりして、気持ちよく歌っていると、とんでもないまちがいをして冷や汗をかく。いまでは、若いときのように声もでないけれど、老若男女、声を合わせて歌うと何とも言えず楽しい。できなかったところが歌えたとき、ハーモニーがぴったり合ったとき、その響きが心にひろがって、帰りながらもついハミングしている。

慰問で訪れた長島光明園にて

'마을은 살아있는 생명체이다'

부산 감천(甘川)문화마을 다녀와서

翻訳部　柳　美　善

11월 저는 부산의 '감천문화마을'이라는 곳에 다녀왔습니다. 저는 부산에서 태어났습니다만, 그곳에 가 본 건 처음입니다. 상당히 다른 느낌에 같은 부산이라고는 생각할 수 없을 정도였습니다. 성냥갑과 같은 집들이 산 자락에 다닥다닥 붙어 있어 멀리서 보면 마치 하나의 예술작품처럼 보입니다. 직접 마을을 걷다보면 개성 넘치는 벽화와 조형물들에 시선이 멈춥니다. 그것들은 모두 예술가들의 제작물입니다.

지금은 관광객들로 붐비는 마을이지만, 이곳은 한국 사회의 아픈 역사가 있는 곳이기도 합니다. 아주 구체적인 사실에 대한 건 저도 잘은 모릅니다만, 당시 힘든 삶을 살았던 사람들의 이미지가 계속 남아 있었습니다. 아마도 여기에는 어두운 역사의 아픔들이 묻혀있지 않았나 생각됩니다. 하지만 지금은 한국 내에 사는 한국사람들 뿐만 아니라 일본사람들이나 한국사람들이 아주 많이 찾는 곳이 되었습니다. 현재 일본에 살고 있는 제가 여행으로 이곳을 방문할 정도로, 한국에 살 땐 생각할 수도 없었던 일들이지요. '마을은 살아있는 생명체이다'라는 말을 들은 적이 있습니다. 정말 감천문화마을은 무언가 강한 생명력을 가지고 있는 듯 합니다. 무언가를 새롭게 만들어 내는 힘을 가진 것 같습니다. 그런 의미에서 이번 여행은 저에게 있어 또 하나의 새로운 한국의 일면을 볼 수 있었던 귀중한 체험의 시간이었습니다.

「町は生き物だ」

釜山カムチョン（甘川）文化村を訪ねて

11月、私は釜山の「カムチョン文化村」へ行ってきました。実は私は釜山生まれなんですが、そこへ行ったのは初めてなのです。ずいぶん違った印象で、同じ釜山とは思えないほどでした。マッチ箱のような家々が山の麓をぎっしりと埋め尽くし、それが遠くから見ればひとつの芸術作品のようです。実際、町の中を歩くと、個性あふれる壁画や造形物に目が留まります。それらは芸術家たちの制作物です。

今では観光客で賑わう町なのですが、ここには韓国社会の悲惨な歴史が存在しています。詳しいことは私にはわかりませんが、その当時貧しい人びとが暮らしていたというイメージはずっと持っていました。おそらく多くのことがここでは歴史の闇に葬られてきたのでしょう。ところが今では韓国内に住む韓国人だけではなく、日本人や外国に住む韓国人がたくさん訪れるようになっています。現に日本に住む私が旅行で訪れるぐらいで、韓国に住んでいた頃にはとても考えられなかったことです。「町は生き物だ」という話をどこかで聞いたことがあるのですが、まさにカムチョン文化村は、何か強い生命力を持っているようです。それは何かを新しく創り上げようとする力のようなもののような気がしてなりません。そういった意味で、今回の旅行は私にとってまた新しい韓国の一面を目にする機会に恵まれた貴重な体験だったように思います。

社内行事～妙見山ハイキング～

運動不足を解消しよう！と言うことで前々から計画されていた
ハイキングがやっと、秋晴れの11月8日(土)に開催されました。
場所は妙見山、コースは上杉尾根コース約4.3kmです。　(制作部　稲木 隆文)

序盤は急な坂道が続き、
息が切れます。
10:30頃

少し休憩、気持ちいい秋の景色が
眼下に広がります。
11:00頃　その頃女性陣は……

お茶してました(^^)
11:00頃

BBQの用意、もうお腹はぺこぺこです。
13:00頃

帰りは楽々
ケーブルカーで下山。
15:00頃

山頂で記念撮影。
12:00頃

到着。
11:30頃

初心者コースだったのですが、普段ずっと
座っているのでかなり疲れました。
機会があれば家族を連れてまた行きたいです。

ストレッチと腹式呼吸

制作部　李　秀　泰

最近、生活の中でできるだけストレッチをするようにしています。実は４年位前から腰痛をかかえ、整骨院に通いつめたものの、なかなかよくならず、つらい日々が続きました。

検査では骨などの異常はないので、むしろ体を動かした方がいいと言われていました。元々プールでの運動は好きな方なので、腰の負担には良いという水中ウォーキングを週に2～3回やったりしていました。マシントレーニングはなかなか長続きしないので、ジムの方にはあまり足が向きませんでしたが、たまたま、30分間のストレッチ教室が目にとまり、これならついていけそうだと思いました。

初めて参加した日は、バレーボールくらいの大きさの柔らかいボールを使いましたが、終わってみて、首、肩から背中、足から腰がとてもスッキリとしたのを覚えています。

以来、教室に通い、わからないことはインストラクターに教えてもらいながら、今では自分自身で行うことが多いです。

ストレッチは、決して反動をつけて曲げたり、痛くなるまで押したりしてはいけません。かえって体を痛めてしまうのです。じっくり伸ばしていって、「**イタ気持ちいい～**」ぐらいの所を見つけるのが良いといわれています。

10～15秒かけて気持ちが良いくらいに伸ばしていると、「**呼吸を止めずに、息をゆっくりと吐いて～**」と、よくインストラクターの声がかかります。ポーズに合わせてついて行こうとすると、ついつい体に力が入ってしまい、息を止めてしまいがちなのです。ストレッチは、常に呼吸をしながら行うのがとても大事なのです。

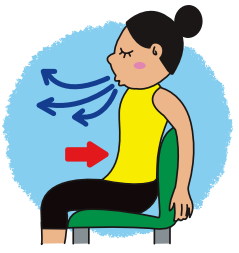
呼吸は、お腹をふくらませながら鼻から吸って～、お腹をへこませながら口から吐いて～、を繰り返す腹式呼吸という呼吸法です。腹式呼吸は、**吸うよりも、しっかり吐くこと**が大事です。コツですが、吐くときは、口をすぼめて細～く、長い息で口から吐いていき、同時にお腹もへこませていきます。

しっかり吐ききれば、今度は鼻から吸いながら、お腹もふくらましていく感じです。それを繰り返します。最初はつかみづらいですが、やっていくうちに、コツがつかめると思います。

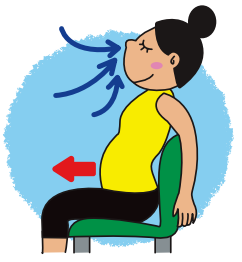
呼吸と同時に大事なのが、いま自分は**どこを伸ばしているのか、その部位を意識**し、かたちをイメージしながら行うことです。

インストラクターが、よく「力を入れず腕の重さだけで…」とか、「大きなボールを抱えるように…」と言うのですが、単に脱力してと言うより、わかりやすいです。

また、あぐらをかいて座って背すじをシャキッと伸ばす姿勢がありますが、こんな場合も「骨盤を床につきさすように…」とか、「頭のつむじが引っ張られるように…」と意識すると、とてもわかりやすいイメージで背すじを伸ばせます。



お腹をへこませながら
口から吐いて～



お腹をふくらませながら
鼻から吸って～

ストレッチに限らず、腹式呼吸は日常生活でも、とても大事だといわれています。よく現代は、ストレス過多で自律神経失調症が多いといわれますが、この自律神経をコントロールするうえで**腹式呼吸が副交感神経を高め、リラックスさせる**ことができるといわれています。

私自身、できれば朝、夜寝る前にストレッチが出来ればいいのですが、そこまで出来ないときでも、ゆったりとした気持ちで腹式呼吸を行うことでリラックスすることを心がけています。

KBSまだん 韓国研修旅行 2014年はなんと ～鬱陵島（ウルルンド）～ 2014 9/12-15

韓国語教室では毎週韓国のニュースを翻訳する宿題が出される。2014年1月、鬱陵島のニュースを見た時、今年の韓国旅行は鬱陵島に行こうと誰かが言い出した。韓国へのチケットは早々と3月には押さえた。それでもセウォル号の事故があったりして船は心配だとか、天気が心配な時は行かないとか、ギリギリまで正式には決まらなかったのである。直前になって船の手配などがようやく完了した。

ソウル市庁前を3時30分に出発した明け方の高速道路、霧の中を猛スピードでバスは走る。朝7時頃 江陵（カンヌン）に到着し朝食をとる。鬱陵島へ行く船は8時の予定だ。船に乗るとき日本人は、なぜ鬱陵島に行くのか目的を聞かれ、パスポートの顔写真のページの他にも念のためにといって顔写真を撮られる。天気はよかったのだが、波が高かったらしい。思いのほか船は揺れていた。

鬱陵島は、直径10kmくらいの小さな島だ。平らなところは海岸沿いの道路と羅里（ナリ）盆地だけ。他はほとんど坂道ばかりで、移動するのも大変だ。案内してくれた運転手さんの言うには、島にあるガソリンスタンドは3カ所のみ。島はおおよそ鬱陵邑、西面、北面とに分かれており、海岸沿いの道路は、島を一周するには至っておらず、北のはずれまで行くと、また来た道を戻ることになる。島を訪れる観光客の多くは皆、登山の格好をしていて、聖人峰（ソンインボン）や展望台には自分の足で登るのだろう。

最初は西面の海岸沿いを北上し、聖霞（ソンハ）神堂から次は北面の海岸を走る。天気もよく、海も山もすばらしくきれいだ。島の印象としては、岩だらけのイメージだったが、実際は樹木が多く繁っており、緑の島だ。玄圃（ヒョンポ）展望台からの眺めはとてもきれいだった。

成仏寺を見学し、それから海中展望台へ移動する。空を眺めると同じような形をした雲が幾重にも重なり、水平線の彼方まで続いている。さらに北面を東へと移動し、観音島が行き止まりの地となる。観音島に架かる橋の上から見た海はさすがに蒼と感じた。

それから次に向かったところは羅里洞。鬱陵島唯一の平地、羅里盆地である。盆地といってもぐるりと見渡せるわずかな広さしかない。羅里洞に残る古い家を見学するところの駐車場には、村人がゆでたトウモロコシを売っていた。なんとも素朴な感じが素敵だ。少し移動して羅里村でマッコリを飲んでのどを潤した。ミョンイという葉の漬け物がおいしい。やがて夕暮れが近づき、帰り道は夕陽がきれいだったので、車を止めてくれた。一旦宿に戻って、夕食は薬草牛のプルコギを食べに出かける。

翌朝最初に向かったところは、内水田（ネスジョン）日出展望台。皆さんお疲れか、展望台まで登ったのは3人だけだったが、天気も良く展望台からの景色は素晴らしい。次に向かったところは蓬萊（ボンネ）滝。驚く程急な坂道を登り、蓬萊滝に着いた頃には息も絶え絶え。

軽くお昼を済ませた後は、郷土資料館と独島博物館を見学。それからケーブルで独島展望台へ登る。案内の運転手さんは他にも見学コースを教えてくれたが、足早に移動するよりもゆっくり見学したいということで、そこまでにした。

帰りの船は夕方5時の予定。今回の旅行で色々お世話になった崔さんが、港まで見送りにきてくれた。帰りの船は波も穏やかで、ほとんど揺れは感じなかった。江陵に戻ったのは9時頃で、ソウルには夜の12時過ぎに到着した。

厳しい日程ではあったが、思い出深い旅行となったのは言うまでもない。

ホームページリニューアル!!

ますます高まるレスポンシブWebデザインの重要性

2014年11月、「Google、検索結果がスマートフォンに対応しているかを表示する仕様に…」という記事を見かけました。Googleの検索結果で、モバイルに最適化されているウェブサイトである場合、ウェブサイト名とURLの下に「スマホ対応（英語表示はMobile-friendly）」というラベルが表示されるというものです。

これからはスマートフォンでの検索の順位も、ウェブサイトがスマートフォンに対応しているかどうかが影響することになりそうです。

ケイビーエスのホームページは、タイミングよく2014年夏頃からリニューアル作業をはじめ、PCやスマートフォン、タブレットなど異なる端末での表示に対応したホームページに生まれ変わりました。《2014年12月 更新予定》

レスポンシブWebデザイン（Responsive Web Design）＝PC、タブレット、スマートフォンなど、あらゆるデバイスに最適化したWebサイトを、単一のHTMLで実現する制作手法です。

【個人情報の取扱について】

この社内報「ナルゲ」は、お取引先・外注先・協力関連先の皆様にお送りしております。
ケイビーエス株式会社は、お客様の個人情報を合理的かつ適切に管理し、業務の目的以外に使用いたしません。また、法令に基づき開示が義務づけられるなどの特段の事情がない限り、第三者に開示・提供することはありません。
当社が管理するお客様自身の個人情報について、お客様から内容確認、修正・更新・削除の要請を受けた場合には、お客様の意思を尊重し、合理的な範囲で必要な対応をいたします。
当社は、お客様の個人情報の保護に関する法令・規範を遵守すると共に、その取り扱いについては、適宜その見直しと改善に努めます。

年末年始休業日のお知らせ

過ぐる年も格別のお引立てとご愛顧を賜り、まことにありがとうございました。
年末年始を下記の通り休業させていただきます。
新しい年も、なにとぞご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

12月27日(土) ～ 1月4日(日)

1月5日(月)午前中営業、1月6日(火)より平常通り営業いたします。

発行日　2015年1月1日

発行／編集　ケイビーエス株式会社
〒544-0033
大阪市生野区勝山北2-16-17
電話　06-6716-5665
FAX　06-6711-2804
E-mail　info@kbsjapan.com
URL　http://www.kbsjapan.com/

編集後記

●今回、社内1番の若手とナルゲの作成に取り組むことになった。私が編集長をしていた時よりずっとしっかりしている。私の担当は「ご意見番」といったところか。「今どきの若者は…」と、いつの時代にも使われるフレーズだが、なんのなんの。頼りになるのである（笑）。（松本）

●新しいことへの挑戦や新しい人との出会いは、私にとってとても大切なことの一つ。ナルゲ編集長を初めて任せてもらい、社員の皆さんの協力でなんとか務めることが出来ました。わからない事だらけで色々反省点はあるけど、学ぶことも多かったです。そしてなにより、編集長をした事でナルゲが一層好きになった!!良い経験になりました。（松倉）